

森づくり最前線

静岡森林管理署 上井出森林事務所 森林官 関 祐佳



富士山大沢崩れ

私が勤務する上井出森林事務所は静岡県富士宮市に所在しており、富士山の西面に位置する約 5,700ha の国有林を管理しています。

富士宮市は、富士山信仰の中心である富士山本宮浅間神社の門前町として、古くから栄えてきており、富士山麓の広大な森林、高原や豊富な湧水等の恵まれた自然環境を利用して多くの産業が発展してきました。

管内の国有林は世界文化遺産である富士山を有し、低山帯にはブナやミズナラ等、亜高山帯にはカラマツ、コメツガなど変化に富んだ垂直分布が見られます。特に標高 2,000m 付近にはカラマツ、ウラジロモミ等からなる原生的で貴重な天然林が分布しており「富士山生物群集保護林」に設定され、さらにその下部には「富士山緑の回廊」が設定されるなど自然環境や生物多様性に配慮した管理が行われています。



分収育林皆伐箇所と富士山

また、山梨県境には「大沢崩れ」などの崩壊が進行している谷があるため、山地災害防止タイプに区分して山地災害防止機能の発揮を重視した管理を行っています。



富士ヒノキを使用した静岡県富士山世界遺産センター

現在、当事務所管内においては、ヒノキやウラジロモミを中心に素材生産事業や立木販売も行っています。富士山麓周辺の厳しい環境下で育ったヒノキは木目が細かく、強度や耐久性に優れていることから地域のブランド材「富士ヒノキ」として注目されており、国有林材の安定的な供給が期待されています。



列状間伐（ウラジロモミ）



「くくりわな」を設置する筆者

管轄する国有林の課題としては、ニホンジカによる森林への被害が深刻化していることがあげられます。静岡県におけるニホンジカ生息密度調査では、富士山西部地域で 30 頭/km² 以上（自然植生にあまり目立った影響が出ない密度は「3～5 頭/km²」）と生息頭数が非常に多くなっており、防護柵の設置が欠かせなくなっています。このため、ニホンジカの低密度化に向けて、署による有害鳥獣捕獲委託事業、県による管理捕獲、職員自らが実施する「くくりわな」捕獲などにより、適正な個体数管理となるよう引き続き取り組んでいきたいと考えています。